

2021年3月6日(日)14:00～17:00
相模女子大学人間社会学部 第7回社会福祉シンポジウム
「コロナ禍における女性の貧困の深層」



Non Regular
Worker/Women United

官製ワーキングプアと女性

瀬山 紀子 nseyama@gmail.com

公務非正規女性全国ネットワーク 副代表

明治大学ほか非常勤講師

自己紹介＆“はむねっと”について

自己紹介

- 2020年3月まで 約20年ほど公立女性関連施設(男女共同参画センター)で、事業全般(相談・講座・広報等)に“非正規公務員”として携わる
- 現在:複数の大学で非常勤講師(ジェンダー福祉論などを担当)
- 同時に「はむねっと」ほか、「#もっと安全な中絶をアクション」など複数の社会活動に関わる



はむねっと:公務非正規女性全国ネットワーク (「公」=ハム)

- 2021年3月緊急集会「官製ワーキングプアの女性たち コロナ後のリアル」をきっかけにスタート(2019年集会がきっかけとなってできた岩波ブックレット『官製ワーキングプアの女性たち』の出版がもとになった集会)
- 非正規で、公務領域で働く人／働いた経験がある人たちを中心とした任意のネットワーク
- 活動内容:当事者実態調査、要望書等の提出、交流、情報発信

今日の話の流れ

1) “官製ワーキングプア”の全体像

官製ワーキングプアとは／“非正規”とは

性別の偏りの問題 女性比率の高さ 職種 専門職／対人援助職

非正規が支えている公務

2) はむねっと調査の紹介

調査実施の背景 当事者の置かれた状況の可視化

調査実施結果／当事者の声・思い

3) いま取り組んでいること

当事者が声をあげる／当事者の声を伝える

だれもが関わる課題として伝えていく

若い世代の将来に関わるテーマ

非正規の女性が砦となっている今の社会への危惧を伝え、この先、どうしていけばよいかについて考え合いたい

官製ワーキングプアとは

■ 官製ワーキングプアとは

ワーキングプア＝働いているのに生活が困窮している状況

働けば暮らしがよくなる・資格を取得すれば／スキルを磨けば生活は安定する、と今も思われていたりする(背景にある自己責任論／女性のための資格取得・スキルアップ講座などは多数存在しているが「出口」は必ずしも用意されていない)

実際には多くの人たちが働いても、資格をとっても、スキルを磨いても、ぎりぎりの生活、食べていけない状況に置かれている。子どもの貧困にもつながる問題

まともな労働、必要な社会保障がない状況

官製 「本来、貧困や困窮状況に置かれた人々を助けるはずの国や自治体(公の機関)が自らが貧困を作り出している」

官製ワーキングプアの全体像

- 国、地方自治体に直接任用されている人の他、委託・指定管理・派遣などさまざまな立場で「公」の機関で働く「非正規」の人たちがいる
- 非正規公務員＝正規公務員ではない人たち（正規＝無期：期間の定めがない働き方 非正規＝有期：期間の定めがあり、継続が保障されない働き方）
- 働いている現場/職種はさまざま（官公庁、市役所、学校、保育、学童、DV被害者支援、就業相談、さまざまな生活相談、図書館、美術館、公民館等々）
- 数でみると非正規地方公務員は約112万人 国の非正規は約15万人
- 地方自治体によってはすでに4割が非正規という自治体も
- 特徴：単年度といった有期任用で、正規公務員との間に、給与、休暇制度含む待遇面の大きな格差
- 女性が多くを占めることも大きな特徴：国の「事務補助」職員、地方自治体の「会計年度任用職員」の約8割が女性

1 臨時・非常勤職員の人数

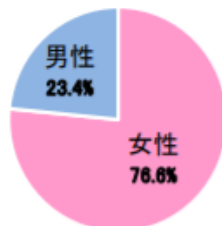
- 職員数は69.4万人で、平成28年度調査の64.3万人から5.1万人増加。
- 任用の適正化等により、特別職非常勤職員や臨時的任用職員が大幅に減少する一方で、一般職非常勤職員（令和2年4月から会計年度任用職員）が大幅に増加。
- 任用根拠別では、会計年度任用職員が62.2万人（89.6%）で最も多い。
団体区分別では、市区が36.4万人（52.4%）で最も多く、次いで都道府県が16.2万人（23.4%）、町村が8.1万人（11.7%）、指定都市が7.0万人（10.1%）となっている。

（単位：人）

区 分		計	（参考）前回調査（平成28年度）との比較			参 考 任用期間6か月未満、又は 勤務時間が19時間25分／週 未満
			計	増減数	増減割合	
任用 根拠 別	会計年度任用職員 (H28:一般職非常勤職員)	622,306 (89.6%)	167,033	455,273	272.6%	279,163 (64.7%)
	臨時的任用職員	68,498 (9.9%)	260,298	▲191,800	▲73.7%	6,229 (1.4%)
	特別職非常勤職員	3,669 (0.5%)	215,800	▲212,131	▲98.3%	145,881 (33.8%)
総 数		694,473 (100.0%)	643,131	51,342	8.0%	431,273 (100.0%)
団体 区 分 別	都道府県	162,492 (23.4%)	138,393	24,099	17.4%	106,363 (24.7%)
	市区町村等	531,981 (76.6%)	504,738	27,243	5.4%	324,910 (75.3%)
	指定都市	70,060 (10.1%)	58,046	12,014	20.7%	49,268 (11.4%)
	市区	363,993 (52.4%)	356,789	7,204	2.0%	230,009 (53.3%)
	町村	81,111 (11.7%)	73,499	7,612	10.4%	41,760 (9.7%)
	一部事務組合等	16,817 (2.4%)	16,404	413	2.5%	3,873 (0.9%)

2 会計年度任用職員について

(2) 性 別



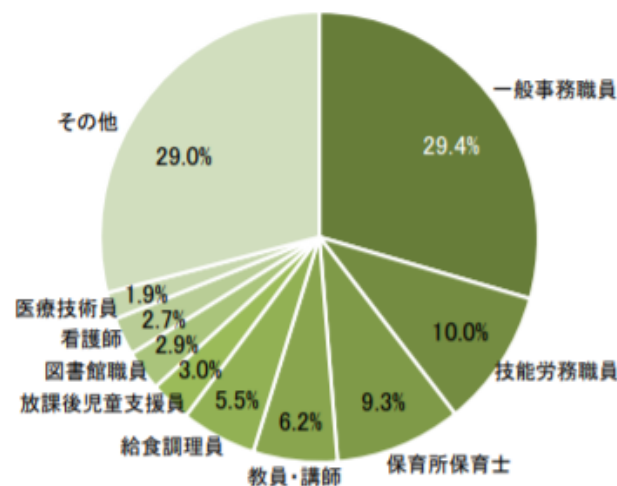
- 会計年度任用職員の約4分の3を女性が占めている。
女性 476,403人 (76.6%) 男性 145,903人 (23.4%)

(3) 職種別

- 会計年度任用職員の約3割が「一般事務職員」であり、次いで「技能労務職員」、「保育所保育士」が多くなっている。

「一般事務職員」：事務系の常勤職員が通常行う業務に類似する業務を行う者をいう。

「技能労務職員」：給食調理員を除く技能・労務系の職務を行う者をいう。



(単位:人)

区 分	会計年度任用職員		フルタイム	パートタイム
	数	構成比		
一般事務職員	183,029	29.4%	15,848	167,181
技能労務職員	61,923	10.0%	7,545	54,378
保育所保育士	57,937	9.3%	16,653	41,284
教員・講師	38,646	6.2%	3,198	35,448
給食調理員	34,511	5.5%	3,627	30,884
放課後児童支援員	18,750	3.0%	472	18,278
図書館職員	18,185	2.9%	1,244	16,941
看護師	16,911	2.7%	2,962	13,949
医療技術員	12,061	1.9%	1,874	10,187
その他	180,353	29.0%	16,188	164,165
合 計	622,306	100.0%	69,611	552,695

実態として存在してきた“ベテラン非正規”

エッセンシャルワークと言える職種にベテラン非正規が存在してきた現状

(3) 同一任命権者において10年以上同一人を繰り返し任用する事例のある団体

(単位: 団体数)

区分	任用団体数	該当団体数	割合
保育所保育士	1325	544	41.1%
消費生活相談員	632	201	31.8%
事務補助職員	1538	486	31.6%
給食調理員	1410	440	31.2%
看護師	1060	268	25.3%
図書館職員	1188	262	22.1%
教員・講師（義務教育以外）	763	138	18.1%
清掃作業員	747	130	17.4%
教員・講師（義務教育）	1246	151	12.1%

総務省『地方公務員の臨時・非常勤職員に関する実態調査結果(2016＝H28)』より

非正規が支えてきた／支えている公務

Web特集 教育現場を支える非正規教員 9万8000人

NHK 2022年2月24日 18時55分

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220224/k10013495441000.html>

1年や半年などの短期間の契約を繰り返し更新して公立の小学校で非正規の教員として働き続ける47歳の女性／2年生のクラス担任／「臨時教員」という勤務形態で現在、14年目。

月給は額面でおおよそ23万円／非正規の教員として働き始めた時の月給は20万／現在の月給がほぼ上限／同じキャリアの正規教員と比べて10万円以上少ない

- 学校現場に限らず、非正規職員は職場の基幹的職務を継続的に担ってきた
- 職種によっては、数年毎に異動していく正規職員に代わり、非正規職員が専門職として長く職場に留まり、職場を支えてきた実態もある
- 特に相談支援職などは、経験や知識を貯めてきた非正規職員によって、成り立っている現状がある（非正規職員が相談者にとっての砦となっている状況）

当事者により実態を明らかにする必要がある

- 官製ワーキングプアの実像は数としてもつかみにくい
- 国、地方自治体に直接やとわれている人の数はある程度つかめるが、民間委託などの立場で働く人たちまではつかみ切れていない
- 数以上に、現状で、どのような立場に置かれ、どんな思いで働いているのかについては国や自治体の調査では見えてこない
- 公務職場には、さまざまな思いを抱えながら、非正規で、長く、公務をささえている人たちがたくさん働いている（正規になるルートはないか、非常に限られている状況）
- 2020年4月から「会計年度任用職員制度」がスタート
- コロナ禍以前からあった困難がコロナにより深刻化
- 職種を超えて、非正規として公務職場を支えている人たちがつながり、そこで感じていることや、課題、希望することなどを話し合い、声をあげていくことが必要と考えた

→コロナ禍／新制度のスタート 集会の開催→アンケート調査の実施

はむねっと調査の紹介

公務非正規女性全国ネットワークの緊急WEBアンケート結果

※調査報告は、団体HPで公開しています

■調査の趣旨・目的

・非正規で公務労働にかかわる当事者の生の声を、インターネットを通じて直接、かつ、広く集め、現状を明らかにすると同時に、社会に公務非正規に従事する人たちの現状を発信すること

■実施団体

公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）



■調査方法

方法：インターネット（グーグルフォーム）によるアンケート

※無記名、メールアドレスの収集設定なし、最低限の必須項目設定。公表時にも、職種等によっては、都道府県を明示することに不安を感じる人がいることを予想し、勤務地記入は必須とせず、地域区分までにする配慮等を記載した。

期間：2021年4月30日（金）～6月4日（金）

対象：現在、非正規で公務労働に従事している方（既に退職された場合でも、2019年4月から2021年4月の間に在職されていた方を含む）

※性別を問わず広く回答を求めた。

※主に、国・地方自治体及びその関係機関で働く非正規労働者を対象とした。

※調査回答のなかには、大学等（国立大学法人、独立行政法人）で非正規教職員として働く方からの回答もあったが、今回は、その回答については、対象外とした。



©2021 公務非正規女性全国ネットワーク

公務非正規労働従事者への緊急アンケート

■有効回答数 1,252 件(回答数 1,305 件)

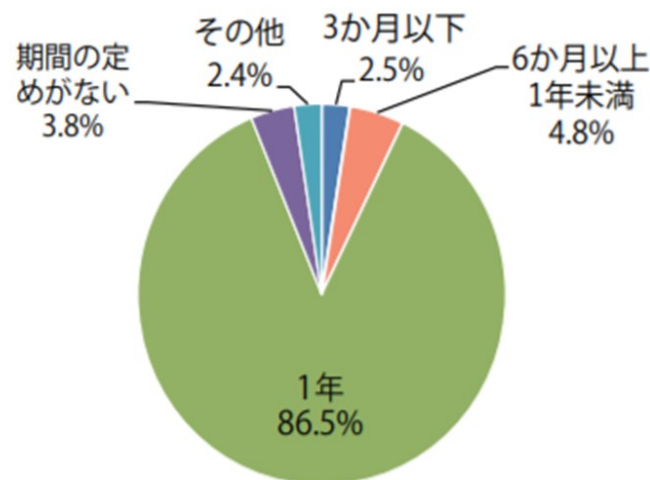
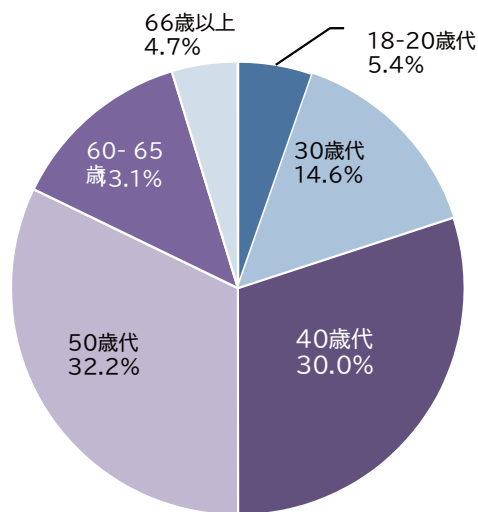
性別 **92.7%が女性**

年代 40代までで50%

雇用先 国6.9% 民間10.3%
地方自治体81.7%

※今回の調査では、地方自治体直接任用の人の回答が多く寄せられた

雇用契約期間 **1年以下が93.8%**

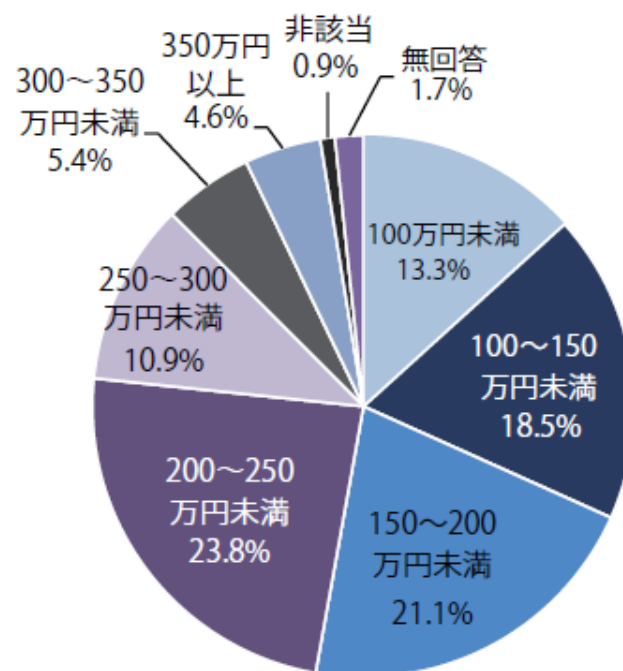


■調査結果の概要（４）

９．２０２０年（１～１２月）の就労収入

２人に１人以上（５２.９％）は２００万円未満であり、
４人に３人以上（７６.６％）は２５０万円未満だった。

①１００万円未満	１６６人（１３.３％）
②１００～１５０万円未満	２３１人（１８.５％）
③１５０～２００万円未満	２６４人（２１.１％）
④２００～２５０万円未満	２９８人（２３.８％）
⑤２５０～３００万円未満	１３６人（１０.９％）
⑥３００～３５０万円未満	６７人（５.４％）
⑦３５０万円以上	５７人（４.６％）
⑧非該当	１１人（０.９％）
⑨無回答	２１人（１.７％）



公務非正規労働従事者への緊急アンケート

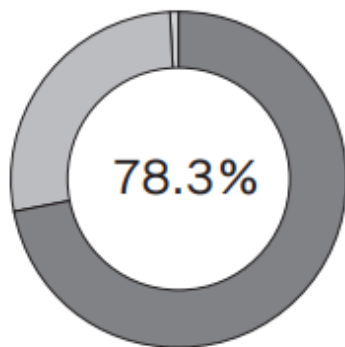
女性で主たる生計維持者の4割以上が、2020年の就労収入が200万円未満。

■会計年度任用職員(女性のみ)の2020年の就労収入

フルタイムでも8割が250万円未満

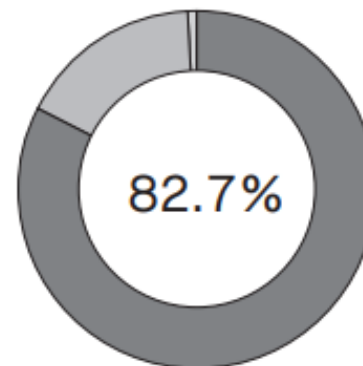
該当者:857人(アンケートの女性総数1,161人の 73.8%)

図6 フルタイムで250万円未満



■250万円未満 ■250万円以上 □無回答

図8 パートタイムで250万円未満



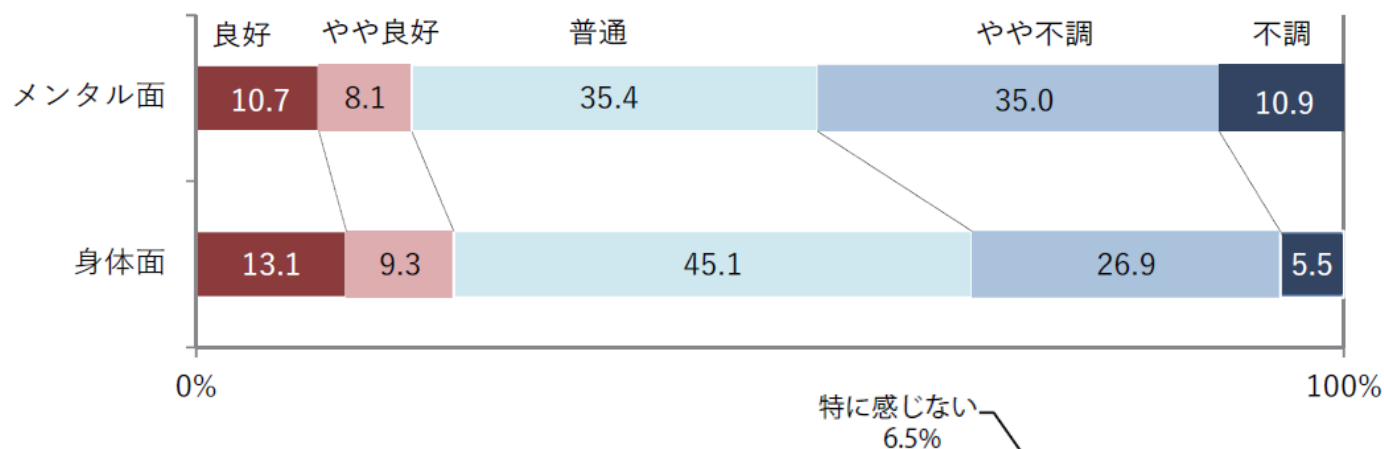
■250万円未満 ■250万円以上 □無回答

出所 | 「公務非正規労働従事者への緊急アンケート調査結果と追加集計概要について」『生活経済政策』

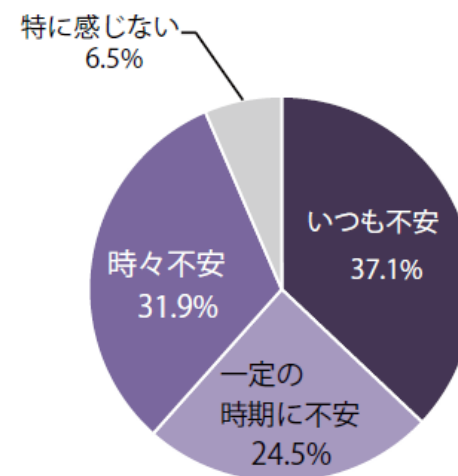
2021.9 No.296 <http://www.seikatsuken.or.jp/monthly/index.html>

公務非正規労働従事者への緊急アンケート

3割を超える人が身体面での、4割を超える人がメンタル不調を抱えた状況



9割を超える人が「将来への不安」を抱えた状況



調査に寄せられた声

専門的な知識や経験が必須となる社会教育施設の職員は非正規雇用の職員が多く、優秀な人材が辞めざるを得ない状況であるため、サービスの質も低下しているという現状。社会教育の仕事がしたくて資格を取得し、好きな仕事ができるならと言いついて6年ほど非正規雇用で働いてきたが、待遇の悪さや多忙さ、時間外勤務の常態化に耐えられず転職を考えている。夢を叶えたのにそれを手放すことになるのが本当に辛い。(～20代、女性、東北・北海道)

児童虐待対応のケースワークで内容が重く大変で専門的な知識や技量が求められるが、それに見合う給与や待遇とは言えない。自身のメンタルヘルスのケアをしながら割り切って仕事をしている。(50代、女性、関東)

司書資格は国家資格でありながら雇用の実態は非正規が大半を占める。資格の有無を問わない雇用条件も増えつつあり、専門性が認められていないのかと日々落ち込む。(～20代、女性、関東)

女性の地位向上を目指す男女共同参画センターであるにもかかわらず、現場の職員(役付きのみ自治体からの派遣)が有期の契約職員であるという事に矛盾を感じる。給与も有給休暇の日数も県職員と差があり、不公平感を感じている。(～20代、女性、九州)

やりがい搾取。日本は福祉等の専門家を非正規の低賃金で雇っており、公務員ですら既得権益だと感じる日々です。公務員では困難な業務を民間に委託しているにもかかわらず、給与は半分から三分の一の試算かと思います。働いている人の人生設計を無視していると言いたいようがありません。(男性、30代、九州)

更新のことが常に気になる。これをしたら切られるのではないかとミスをしたら切られるのではないかと上手いかなと切られるのではないかとという不安は常にある。(50代、女性、東海)

この給与で将来家庭や子どもを持てるのかという不安がある。(～20代、女性、関東)

コロナ禍の困難

コロナ禍においても、非正規職員は当たり前のように最前線にいる。待遇が違ふことを社会として認めるのであれば、弱い立場にある人は積極的に守られるべきだ。しかし、そうした声もあまり上がらず、むしろ非常時に「正規／非正規」の差は消されてしまっているように思う。(近畿、40代、女性)

市役所カウンターで正職員はシェードを立て、感染防止されているが、私達は自前のマスクだけで何も防護物支給なく、毎日通常通り高齢者宅や病院へ訪問に行かされています。正職員は守られて、こういう仕事を選んだ私が悪いのかとさえ思います。(近畿、40代、女性)

時給900円未満で働いているのに、窓口で怒鳴られていても誰も助けてくれないので、とてもむなしく孤独な気分になります。自分はサンドバッグ役をやるために雇われた人間なんだなあとおもいます。(関東、18～29歳、女性)

正規職員と待遇の差があった。非正規職員には感染対策用品の配布が無く、自費で対応している。(東北・北海道、60代、女性)

Covid-19感染対策がほぼなされていないなかでの勤務であること、給与の低さ、やりがい搾取があたりまえという環境だが転職も難しく将来は常に不安。(関東、40代、女性)

正規職員と待遇の差があった、コロナに関係して勤務・手当が影響を受ける事はなかったが、正規職員だけが在宅勤務可能になって職場が非正規だらけになり、その分電話対応などに追われ地獄を見た。(関東、60代、女性)

コロナのリスク対策があまりにもお粗末で呆れるばかりです。マスクも窓口以外では付けない職員もいました。非常勤はリスクが高すぎました。(関東、60代、女性)

調査実施後の取組みと動き

- 7月 調査実施後の記者会見開催 →さまざまなメディアが取り上げてくれた
国への要望活動
- 7/27 要望書「メンタルヘルス調査対象に非正規公務員を加えてください」を総務省に送付 9/2 文書回答
- 11/26 要望書「会計年度任用職員制度を見直してください」を内閣総理大臣、総務大臣、厚生労働大臣に 送付(2022/ 1/21 電話回答:厚生労働省、1/25 文書回答:総務省(総務省は今年度、再度の調査を実施:自治体に文書発出)
- 11/26要望書「女性の非正規職問題の対象に、公務部門の非正規職も入れてください」を男女共同参画・女性活躍大臣に送付 2022/2/9 メール回答: 男女共同参画局
- 12/8要望書「令和3年度の職員の期末・勤勉手当に関する減額勧告について、会計年度任用職員を対象としないでください」を都道府県・政令指定都市等人事委員会委員長69名に送付 2022/2/1 までに、全ての人事委員会から文書回答

当事者が声を上げることの大切さ／上げなければならぬことの困難

- 当事者にしか見えない現実がある
- 当事者にしか語れない思いがある
- 官製ワーキングプアとして働いている人たちの中には、専門職として、その仕事が出来たいと思い、他に選択肢が用意されていない状況で、非正規として仕事を続けている人が少なくない(図書館司書、美術館・博物館学芸員、女性相談員、児童福祉専門職、スクールソーシャルワーカー等々) = 仕事を選んだのであって、待遇を選んでいるのではない
- 同時に、非正規の人たちは、一定の期間(1年毎など)で更新がされるか、されないか、わからず、不安を抱えて働いており、声を上げにくい状況に置かれている(雇止めにあっても、「任期満了に伴う退職」)
- …でも、苦しい立場にいる当事者の声を待っていてよいのだろうか
- 大学で資格を取り、希望する専門職に就けたことを喜んでいた人が、希望を失い、苦しんでいる状況は見過ごせない大きな課題

是非、一緒に考えていきましょう

- 公務の仕事に支えられているのはわたしたち自身
- 本来、公務は、人々が貧困や困窮に陥らないようにサポートをしたり、そのような状況に陥ってしまった場合のサポートをしたりする役割があるはず
- 公は、ワーキングプアを生み出す場所になるのではなく、**ディーセントワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を生み出す場所**であってほしい
- どうような「公」をつくっていくのか、「公」にどのようなことを望んでいくのかは、社会のあり方を考えることにつながる
- 働き手も、自身の働き方や、自身が働く職場の現在や未来について考えていくことが必要。同時に、公の仕事に支えられているすべての人が、公の仕事のあり方、特に、その担い手のあり方について考え、現状の問題を知り、改善に向けて動いていく必要がある

★お知らせ★

はむねっと発足1周年 ハイブリッド集会 あきらめずに声をあげよう！
公務非正規から問う。このままでよいはずがない私たちの社会

集会案内サイト：<https://nrwwu.com/gathering/1305/>

ユーチューブ：<https://youtu.be/jSDbdY9HrtA>



■開催期日:2022年3月20日(日)13:00—16:00

■開催会場:公益社団法人 日本図書館協会 研修室(中央区新川1-11-14)

最寄り駅:茅場町駅(地下鉄東西線, 日比谷線)より徒歩5分

■開催方法:オンライン・リアル配信(&アーカイブ配信)あり

※リアル会場定員 30名(先着順)

リアル会場参加申し込み→ hiseiki.koumu@gmail.com

※今後の感染状況によっては、オンライン配信のみとなる可能性があります。

■主催:公務非正規女性全国ネットワーク(はむねっと)

■後援:岩波書店、公益社団法人日本図書館協会